



# 次期学習指導要領で 学校は とうなる とうする!?

すでに移行措置が始まっている次期学習指導要領ですが、小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面実施される予定です。教育内容や教育方法を大きく変えようとする内容ですが、はたして多忙な学校現場で対応できるのでしょうか。

次期学習指導要領の改訂のポイントと問題点について、考えてみたいと思います。

## 「何を学ぶのか」 増える学習内容

文科省が打ち出している「学習指導要領改訂のポイント」によれば、教育内容の主な改善事項として、「言語能力の確実な育成」をはじめ、「理数教育」、「伝統や文化に関する教育」、「道徳教育」、「体験活動」、「外国語教育」の充実を挙げています。学校現場では、すでに「特別の教科 道徳」が新設され、授業と評価が行われています。また外国語教育については、外国語の授業が高学年で週2時間、中学年で週1時間を行うこととし、すでに、部分的ないし全時間行われています。各学校では、増えた授業時数を確保するために、時間割を調整し、何とか時間を生み出している現状が見られます。

さらに、「主権者教育」、「消費者教育」、「防災・安全教育」、「プログラミング教育」の充実なども含まれています。学習内容が増えたにも関わらず、文科省は、これまでの学習内容について「学習内容の削減は行わない」といった方針

針を出しています。既存の学習内容はそのまま、さらに新しい学習内容を増やすことで、無理はないのでしょうか。それに対し、文科省は、「各学校でカリキュラム・マネジメントを」と打ち出し、「教科横断的な学習の充実」、「教育内容や時間の適切な配分」、「必要な人や物を確保すること」といった対応が必要であるとし、その責任を学校に丸投げしています。学校現場の混乱は十分に予想されます。

## 「何ができるようになるか」 人間性まで規定?

次期学習指導要領では、どの教科においても育成すべき資質・能力として、

- ① 知識及び技能
  - ② 思考力、判断力、表現力等
  - ③ 学びに向かう力、人間性等
- の3本柱で育成しようとしています。そして、各教科ごとにその内容を細かく規定しています。知識・技能・思考力・表現力といった能力は、各教科で身につける学力として理解できるのですが、③の「人間性」については、はたしてどのようなのでしょうか。

もちろん人間性は大切です。しかし、こういう「人間性」をもった人間になりたいかは、本来、各個人が自分自身で決めることです。それを国が規定するというのは、国家が求める「特定の人間性」を育成する方向に、学校教育が進められていくのではないかと心配されます。

## 「どのよう」に学ぶのか」 指導法まで強制

文科省は新しい時代に対応するため、受け身ではなく進んで学習に取り組む「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の導入を打ち出しています。子どもたちが学ぶことに興味をもち、友達と関わり話し合いながら、学びを深めていくイメージがあります。一見良さそうな教育方法ですが、果たして問題はないのでしょうか。

これまでの学校教育でも、「学び合い」や「グループ学習」など、子ども同士が関わり合いながら学ぶ方法はあり、さまざまな教育実践が蓄積されています。また、教科や授業内容によっては、教師が教える講義スタイルの時もあり、子どもたちが関わりながら学ぶ学習スタイルもあります。担任が、その時々の学習内容や子どもや学級の実態に合わせ、指導方法を選択しているのが現状ではないのでしょうか。

文科省から提示されることで、「主体的・対話的で深い学び」型の授業のみが推奨される心配があります。また、「話し合い」「関わり合い」の「型」が優先されるあまりに、学びが深まらなったり、子どもの学習意欲につながらなったりすることが危惧されます。

「主体的・対話的で深い学び」を効果的に実現させるためには、教師が子どもの活動を把握しやすくするために少人数学級にすることや、子ども自らの学びをじっくり待つ時間を確保するために学習内容を精選するといった対応が必要となります。しかし、文科省からはそういった対応を行う動きは見られません。

さらに、指導方法をどのように選んでいくかは、子どもたちと向き合う一人ひとりの教師に委ねられるべきです。また、今の学校現場には、発達障害や貧困の問題を抱えている子どももいます。「学習内容」だけでなく「教え方」まで押し付けることは、教師の創造

(※裏面に続く)

性や主体性を無くさせ、子どもの学習意欲を低下させることに繋がりがかねませぬ。

# 学校現場を救う教育施策を

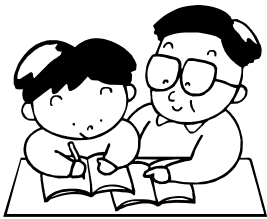
学校現場には、「これまで」「子どものため」「未来のために」「安全のために」ということで、様々な内容の教育が押し付けられてきました。

次期学習指導要領では、さらに教育内容が増えます。しかし、多くの教職員や父母が願っている教員の増員や少人数学級の実現といった対応については、国はきちんと向き合わず、各自治体任せになっています。

その結果、多忙でブラックと呼ばれる学校現場となり、教員志望の学生も減少、講師も足りないという状況になっています。

また、「〇〇教育」と銘打つと、どれもが美しい響きをもった言葉で否定しづらいものとなってしまいます。しかし、だからと言って、全てを学校で行えるものなのでしょうか。また学校だけで行うものなのでしょうか。

美しい言葉に惑わされず、学校が行うべき教育を見つめ直す時期に来ているのではないのでしょうか。そういった意味では、次期学習指導要領の抜本的見直しが必要だと考えます。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ この夏！近隣で開催される民間教育研究集会 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

教師・親・学生・誰でも気軽に参加でき、明日の教育や子育てに役立つ研究集会

## 2019年日本生活教育連盟第71回夏季全国研究集会

主催 日本生活教育連盟 第71回日生連夏季全国研究集会愛知集会実行委員会  
後援 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会

研究主題 **「今こそ 子どもの真実にむきあい、主体者として育てる」**  
**～子ども・親・教師が共に学び育ち合う教育の創造を～**

日時 2019年8月9日(金)～8月11日(日)  
研究会場 名古屋大学 東山キャンパス 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

参加費  
6000円  
※1日参加  
3000円  
講演会のみ  
1000円

<9日>

現地基調 **「いのち輝く瞬間を仲間と共に」**  
実践報告 **～肢体不自由の人形劇団誕生物語～**  
南 寿樹 氏 (NPO法人ぐるみの会理事 元養護学校教員)  
記念講演 **「ちひろと絵本の世界 —絵を読む楽しさ—**  
松本 猛 氏(元安曇野ちひろ美術館館長 美術・絵本評論家)

<10日・11日>分科会

「ことばと教育」「算数・数学」「社会科」  
「生活科と総合教育」「小学校の生活指導(人間関係づくり)」「乳幼児期の教育」「障がい児教育」  
「能力・発達と評価」「教育と子育て」

すべての子どもたちに外国語を学ぶ喜びと平和な未来をひらく力を

New English Teachers' Association

## 新英語教育研究会 2019 第56回全国大会 愛知

主催 新英語教育研究会  
後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会  
とき 2019年 8月3日(土)～8月4日(日)  
会場 名古屋学院大学 名古屋キャンパス しろとり  
(詳細は申込書裏、p.8を参照ください)



参加費  
7000円  
※1日参加  
3000円  
講演会のみ  
1000円

<3日>

●記念講演  
**「英語教育幻想を破る**  
**～日本にふさわしい授業へ～**  
講師：久保田 竜子氏

<4日>

●分科会  
「自主教材」「小学校・入門期の英語」「文法」  
「自己表現」「学力」「仲間と学ぶ」「遅れがちな子どもと学ぶ」